

平成 18 年度

高次脳機能障害実態調査報告書

石川県リハビリテーションセンター
石川県健康福祉部障害保健福祉課

はじめに

近年、外傷性脳損傷や脳血管障害などによる高次脳機能障害のある方の生活支援の必要性が課題とされております。

このことを受け、厚生労働省では、平成13年度より高次脳機能障害に対する高次脳機能障害支援モデル事業を開始し、この事業を基に診断基準および、必要な支援体制の強化を打ち出しました。さらに、全国では各県に高次脳機能障害支援対策の拠点センターの設置をすすめております。

石川県におきましても、その必要性は十分に認識しており、県内の関係機関との協力の下、支援体制を推進していく意向です。しかし、いまだに高次脳機能障害の認知度は低く、支援にあたっての現状や課題も不明瞭でした。

そこで、今回は石川県内のリハビリテーション実施施設のご協力の下、高次脳機能障害の実態やリハビリテーション実施上の課題、今後必要なサービス等の調査を実施いたしました。

結果としては、高次脳機能障害の方は記憶障害、注意障害、計画的行動の遂行機能障害、社会的行動障害があり、長期に渡って多様なリハビリテーションが必要であること、若年者向けの生活の場や通所する場、就労に関する支援が必要であることが明らかとなりました。今後石川県でもこれらのニーズに対応することができるようサービスや支援体制を構築していきたいと考えております。

末尾ではありますが、今回の調査にご協力を頂きました関係機関の方々に感謝を申し上げます。

平成19年2月

石川県リハビリテーションセンター
石川県健康福祉部障害保健福祉課

目 次

| | | |
|-----|-------------------------|----|
| I | 調査の概要 | 1 |
| II | 調査結果 | |
| 1 | 回収状況 | 2 |
| 2 | 対象者の基本的属性 | 3 |
| 3 | 対象者の現状 | 5 |
| 4 | リハビリテーションの実施状況 | 8 |
| 5 | 今後必要なサービス | 10 |
| 6 | その他分析結果 | 11 |
| III | 考察 | 18 |
| IV | まとめ | 20 |
| | 資料1 「本調査における高次脳機能障害の定義」 | 21 |
| | 資料2 「高次脳機能障害者状況調査」 | 22 |
| | 資料3 「アンケート集計結果」 | 26 |

I 調査の概要

1 調査の目的

近年、外傷性脳損傷や脳血管障害などによる高次脳機能障害のある方に対する生活支援の必要性が課題とされている。

そこで、高次脳機能障害のある方の現状や課題、必要なサービス等を把握するため、石川県内の各病院や施設のリハビリテーション担当者を対象に、実態調査を行い、高次脳機能障害によって家庭生活や社会生活の適応が困難となっている方々の支援のあり方を検討した。

2 実施主体

石川県リハビリテーションセンター

石川県健康福祉部障害保健福祉課

3 調査内容

(1) 1次調査

石川県内で高次脳機能障害によりリハビリテーションを受けている人数と施設数を把握した。

(2) 2次調査

対象者1事例毎に基本的事項、現在の状況、リハビリテーションの内容、今後必要な支援や福祉サービス等を調査した。

4 1次調査の概要

(1) 調査方法

石川県内の理学療法士（以下PT）、作業療法士（以下OT）、言語聴覚士（以下ST）が勤務する医療機関、介護保険施設、介護サービス事業所、福祉施設等178施設に「本調査における高次脳機能障害の定義」（資料1）及び「高次脳機能障害患者状況調査」（資料2）を郵送し回答を依頼した。

(2) 調査時期

平成18年7月1日現在

(3) 調査項目

調査対象施設でリハビリテーションを実施しており、厚生労働省の高次脳機能障害支援モデル事業¹⁾による診断基準に準じた高次脳機能障害のある方の人数

5 2次調査の概要

(1) 調査方法

1次調査で高次脳機能障害の方がいると回答があった施設に対して、2次調査票を郵送し回答を依頼した。

(2) 調査回答者：高次脳機能障害の方を担当している医師又はPT、OT、STとした。

(3) 調査項目 (資料2)

表1の内容について調査を行った(詳細は別添資料2参照)。

表1.調査項目

| | |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本的属性 | 機関名、記入者、年齢、性別、居住市町名、高次脳機能障害の原因、 発症・受傷した時期、発症・受傷時の就学・就労状況 |
| 対象者の現状 | 対象者の帰属(入院、通院、入所、通所、訪問リハ)、障害者手帳の有無、 要介護認定の有無、現在の症状(身体機能、高次脳機能)、ADL・IADLの状況、 性格・人間関係の変化(社会的行動障害)の状況、就学・就労の転機状況、受け ている支援やサービス |
| リハビリテーションの内容 (自由記載) | 実施内容(PT,OT,ST等)と頻度、リハビリテーションのアプローチ内容、 治療(支援)の課題や問題 |
| ニーズ(自由記載) | 今後必要な支援や福祉サービス等 |

II 調査結果

1 回収状況

1次調査は、178施設(100%)から回答が得られた。その内、2次調査の対象となる施設は85施設(48%)であった。また、2次調査は85施設(100%)すべてから回答を得ることができ、計539人の事例が報告された(表2)。

表2.調査の回収状況

| | 1次調査 | | 2次調査 | | | |
|-------------|-----------|-----------|---------------------------|-----------|------|------------|
| | 1次調査回答施設数 | 2次調査対象施設数 | 1次調査回答施設数に対する2次調査対象施設数の割合 | 2次調査回答施設数 | 回答率 | 報告された人数(人) |
| 一般病院 | 82 | 43 | 52% | 43 | 100% | 283 |
| 精神科病院 | 11 | 3 | 27% | 3 | 100% | 9 |
| 診療所 | 15 | 3 | 20% | 3 | 100% | 20 |
| 老人保健施設 | 37 | 18 | 49% | 18 | 100% | 110 |
| 通所リハ | 20 | 13 | 65% | 13 | 100% | 54 |
| 老人福祉施設 | 5 | 2 | 40% | 2 | 100% | 24 |
| 通所介護 | 3 | 1 | 33% | 1 | 100% | 3 |
| 病院訪問リハ | 3 | 0 | 0% | - | - | - |
| 訪問看護ステーション | 4 | 2 | 50% | 2 | 100% | 22 |
| 肢体不自由児施設 | 1 | 0 | 0% | - | - | - |
| 身体障害者更生施設 | 1 | 1 | 100% | 1 | 100% | 6 |
| 身体障害者通所授産施設 | 1 | 0 | 0% | - | - | - |
| 身体障害者療護施設 | 2 | 2 | 100% | 2 | 100% | 8 |
| 重症心身障害児施設 | 2 | 0 | 0% | - | - | - |
| 重度身体障害者療護施設 | 1 | 0 | 0% | - | - | - |
| 合計 | 178 | 85 | 48% | 85 | 100% | 539 |

なお、国が示した高次脳機能障害の基準を満たさない事例(発達障害や進行性疾患、ADL全介助で寝たきり状態の事例)、記入漏れが非常に多い事例の計157人を今回の分析対象から除外した。

2 対象者の基本的属性

(1) 高次脳機能障害の対象者数

国が示した高次脳機能障害者の基準¹⁾を満たす高次脳機能障害の方は 382 人であった。

(2) 性別と年齢

性別は男性が 299 人 (59.9%)、女性 151 人 (39.5%) で、男性が 6 割を占めていた。

年齢は平均年齢 68.6 歳で、65 歳未満の人は 133 人 (34.9%) と少なく、65 歳以上の人は 249 人 (65.1%) と全体の 2/3 を占めていた (表 3)。

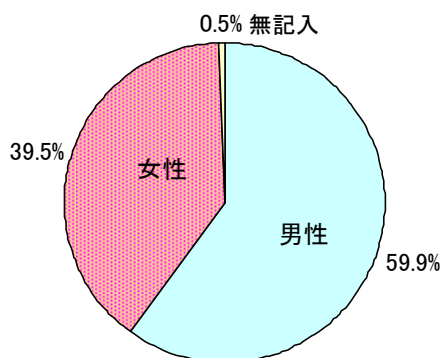


図 1.性別の割合

表 3.年齢の構成

| | 人数(人) | 割合 |
|-----------|-------|-------|
| 18 歳未満 | 1 | 0.3% |
| 18～40 歳未満 | 16 | 4.2% |
| 40～65 歳未満 | 116 | 30.4% |
| 65～75 歳未満 | 106 | 27.7% |
| 75 歳以上 | 143 | 37.4% |
| 計 | 382 | 100% |

(3) 各機関における把握人数

一般病院が 221 人 (57.9%) と最も多く、次いで老人保健施設が 56 人 (14.7%)、通所リハビリが 42 人 (11.0%) となっていた (表 4)。

表 4.各機関における把握人数と割合

| | 一般病院 | 精神科病院 | 診療所 | 老人保健施設 | 通所リハ | 老人福祉施設 | 通所介護 | 訪問看護(訪問リハ) | 身障更生施設 | 身障療護施設 | 計 |
|-------|-------|-------|------|--------|-------|--------|------|------------|--------|--------|------|
| 人数(人) | 221 | 8 | 12 | 56 | 42 | 13 | 3 | 13 | 6 | 8 | 382 |
| 割合 | 57.9% | 2.1% | 3.1% | 14.7% | 11.0% | 3.4% | 0.8% | 3.4% | 1.6% | 2.1% | 100% |

(4) 2次医療圏域の分布

ケースの居住市町における 2 次医療圏域別では、金沢市が 143 人 (37.4%) と最も多く、その他の圏域では特に地域的な差は見られなかった (表 5)。

表 5. 2 次医療圏域の人数と割合

| | 人数(人) | 割合 |
|------|-------|-------|
| 南加賀 | 52 | 13.6% |
| 石川中央 | 76 | 19.9% |
| 金沢市 | 143 | 37.4% |
| 能登中部 | 55 | 14.4% |
| 能登北部 | 50 | 13.1% |
| 無記入 | 6 | 1.6% |

(5) 高次脳機能障害の原因

脳血管障害が 317 人（83.0%）と最も多く、次いで外傷性脳損傷が 38 人（9.9%）となっていた。なお、外傷性脳損傷の原因は交通事故が半数を占め、内 14 人が 65 歳未満の若年者であった。また、転落事故のうち 13 人が 65 歳以上の高齢者であった（表 6）。

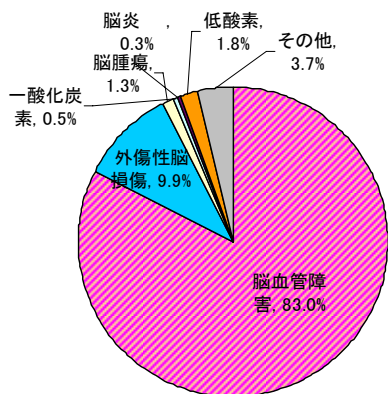


図 2.原因疾患

表 6.外傷性脳損傷の内訳

| | 人数(人) | 割合 |
|------|-------|-------|
| 交通事故 | 19 | 50.0% |
| 転落 | 15 | 39.5% |
| その他 | 4 | 10.5% |

(6) 発症・受傷からの期間

発症・受傷からの期間では、6ヶ月未満が 111 人（29.1%）と最も多いが、6ヶ月以降もリハビリテーションを継続し、5年、10年以上と長期に渡って受けている人もいた（表 7）。

表 7.受傷・発症からの期間

| | 6ヶ月未満 | 6ヶ月～1年未満 | 1～2年未満 | 2～3年未満 | 3～5年未満 | 5～10年未満 | 10年以上 | 無記入 |
|-------|-------|----------|--------|--------|--------|---------|-------|------|
| 人数(人) | 111 | 45 | 38 | 32 | 56 | 47 | 29 | 24 |
| 割合 | 29.1% | 11.8% | 9.9% | 8.4% | 14.7% | 12.3% | 7.6% | 6.3% |

(7) 発症・受傷時の就学・就労状況

学生であった方は 6 人（1.6%）と非常に少なく、仕事に就いていた方は 128 人（33.5%）と最も多かった。なお、無職の方のうち 114 人（91.2%）が 65 歳以上の高齢者であった（図 3）。

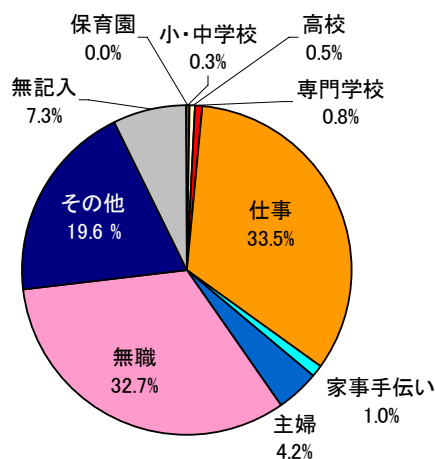


図 3.発症・受傷時の就学・就労状況

3 対象者の現状

(1) 対象者の帰属

在宅が 193 人 (50.5%) と半数を占めており、2 箇所以上のリハビリを受けている方は 34 人 (8.9%) であった。また、65 歳未満では在宅の割合が 6 割と高く、40 人 (30.1%) は通院していた。65 歳以上では、入院の割合が 4 割と高くなっていた (表 8)。

表 8.対象者の帰属

| | 65 歳未満 (133 人) | | 65 歳以上 (249 人) | | 全体 (382 人) | |
|-----------------|-------------------|-------|-------------------|-------|---------------|-------|
| | 人数 (人) | 割合 | 人数 (人) | 割合 | 人数 (人) | 割合 |
| 入院 | 35 | 26.3% | 100 | 40.2% | 135 | 35.3% |
| 在宅 | 80 | 60.2% | 113 | 45.4% | 193 | 50.5% |
| 通院(外来リハ) | 40 | 30.1% | 34 | 13.7% | 74 | 19.4% |
| 通所リハ | 23 | 17.3% | 55 | 22.1% | 78 | 20.4% |
| 訪問リハ | 5 | 3.8% | 2 | 0.8% | 7 | 1.8% |
| 通院・通所リハ 併用 | 6 | 4.5% | 17 | 6.8% | 23 | 6.0% |
| 通院・訪問リハ 併用 | 1 | 0.8% | 0 | 0.0% | 1 | 0.3% |
| 通所リハ・訪問リハ 併用 | 4 | 3.0% | 2 | 0.8% | 6 | 1.6% |
| 通院・通所リハ・訪問リハ 併用 | 1 | 0.8% | 3 | 1.2% | 4 | 1.0% |
| 施設入所 | 16 | 12.0% | 33 | 13.3% | 49 | 12.8% |
| 無記入 | 2 | 1.5% | 3 | 1.2% | 5 | 1.3% |

(2) 手帳の有無と介護保険の利用

身体障害者手帳を保有している方は 124 人 (32.5%)、要介護認定を受けている方は 237 人 (62.0%) であった。また、手帳や要介護認定を受けていない方は 98 人 (25.7%) であり (表 9)、発症・受傷からの期間が 6 ヶ月以上経過した方では 33 人 (13.4%) が受けていなかった。

表 9.障害者手帳保有者及び介護保険利用者数

| | 65 歳未満 (133 人) | | 65 歳以上 (249 人) | | 全体 (382 人) | |
|---------------|-------------------|-------|-------------------|-------|---------------|-------|
| | 人数(人) | 割合 | 人数(人) | 割合 | 人数(人) | 割合 |
| 身体障害者手帳 ※ | 69 | 51.9% | 55 | 22.1% | 124 | 32.5% |
| 療育手帳 ※ | 0 | 0.0% | 1 | 0.4% | 1 | 0.3% |
| 精神保健福祉手帳 ※ | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |
| 介護保険利用 ※ | 53 | 39.8% | 184 | 73.9% | 237 | 62.0% |
| 手帳なし、介護保険利用なし | 41 | 30.8% | 57 | 22.9% | 98 | 25.7% |

※重複回答あり

(3) 現在の症状について

①身体機能の障害

運動麻痺のある方は 285 人 (74.6%) で、運動麻痺のない方は 97 人 (25.4%) であった (図 4)。また、運動麻痺で最も多いのは片麻痺 246 人 (82.3%) であった (図 5)。

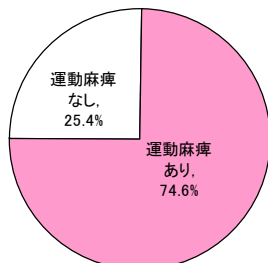


図 4.運動麻痺の有無

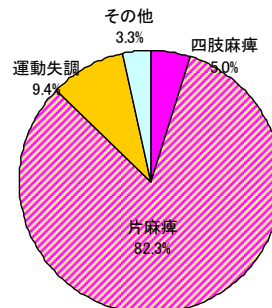


図 5.運動麻痺の内容

②高次脳機能障害の症状

高次脳機能障害の症状では、注意障害が 333 人 (87.2%)、記憶障害が 318 人 (83.2%)、計画的行動の遂行機能障害が 295 人 (77.2%)、病識の低下が 262 人 (68.6%) に認められた。また、失行や失語はあまり認められなかった (図 6)。

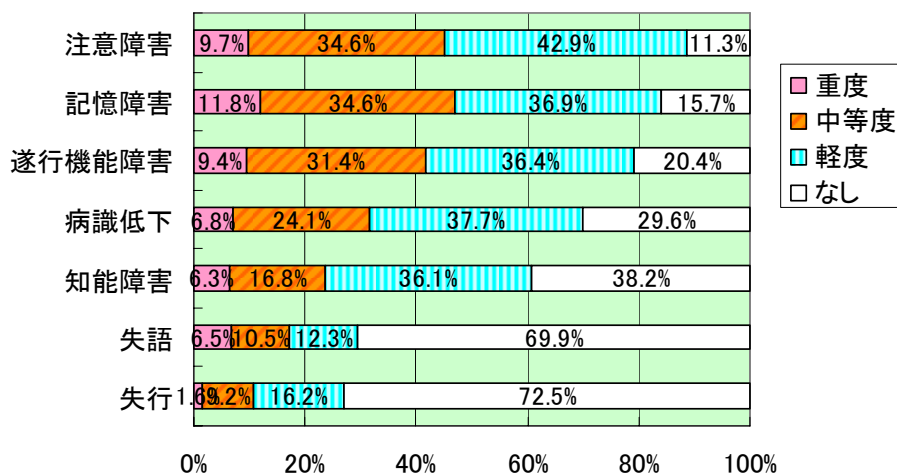


図 6.高次脳機能障害の症状

(4) ADL・IADL の状況

①ADL の状況

移動の状況は、独歩 132 人 (34.6%)、杖歩行 115 人 (30.1%) であり、2/3 が歩行可能であった (図 7)。また、車いすを使用している方については 65 歳以上が多かった。

入浴は 304 人 (79.6%)、更衣は 240 人 (62.8%) に介助が必要であった (図 8)。

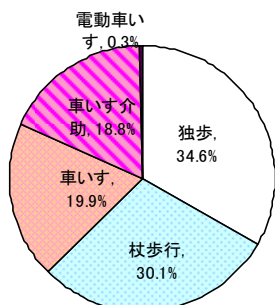


図 7.移動の状況

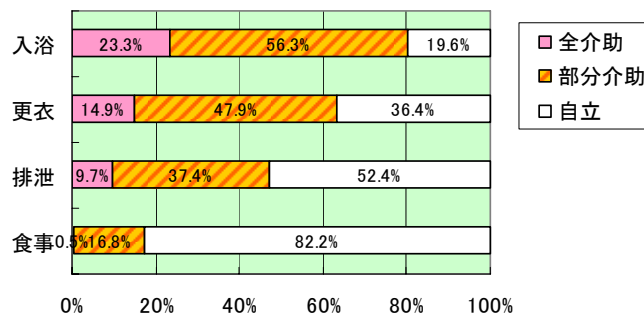


図 8.ADL の状況

②IADL（手段的日常生活動作）の状況

IADL で介助を要するのは、交通手段の利用時が 345 人（90.3%）と最も多く、次いで買い物、金銭管理、服薬管理、地図（道順）の理解、日課の管理であった。また、日常会話や電話の利用は比較的自立している方が多かった（図 9）。

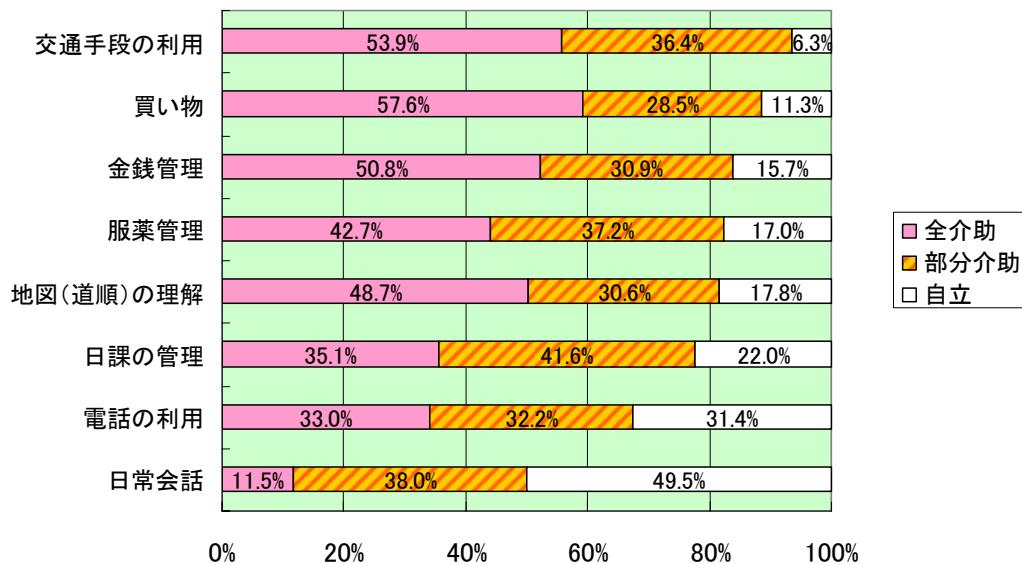


図 9 .IADL の状況

(5) 社会的行動障害の状況

社会的行動障害では感情のコントロールで 131 人（65.7%）に問題が認められ、家族との関係で 122 人（31.9%）に問題が認められた。また、暴言や暴力については、2 割程度に問題が認められた（図 10）。

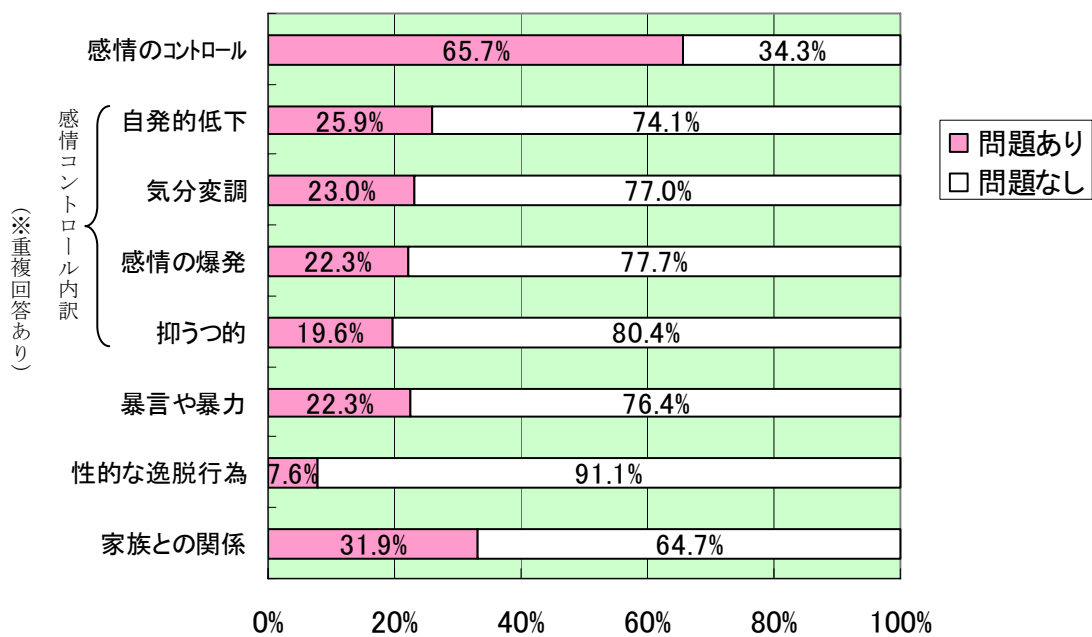


図 10.社会的行動障害の状況

(6) 現在の就学・就労状況

現在の就学・就労状況は 117 人(30.6%)が退学、離職しており、復帰した方は 11 人(3.2%)と非常に少なかった。その他については、65 歳以上の元々職業についていないという方が多かった(図 11)。

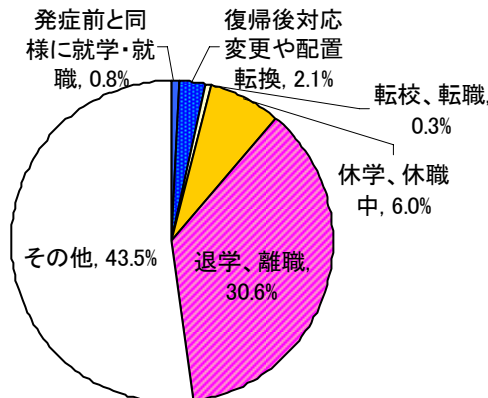


図 11.現在の就学・就労状況

(7) 現在受けているサービス

現在受けているサービスは、福祉サービスや市町事業を受けている方は非常に少なく、介護保険サービスを多く利用していた。また、65 歳未満では通所リハビリの利用が 31 人(23%)、65 歳以上では通所リハビリの利用が 76 人(31%)、通所介護が 42 人(17%)であった(図 12)。なお、サービスを全く利用していない方は 209 人(54.7%)であった。

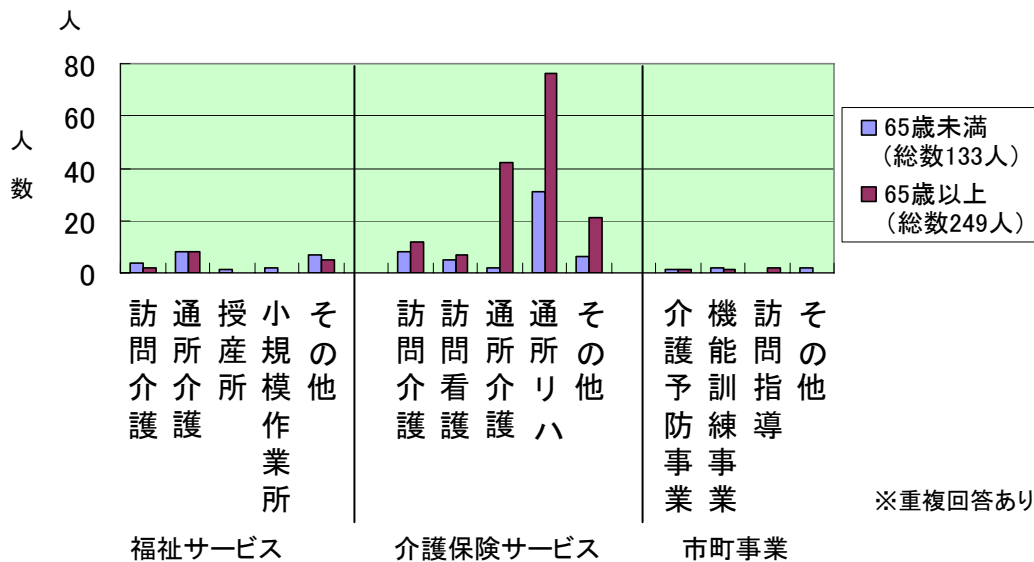


図 12.現在受けているサービス

4 リハビリテーションの実施状況

(1) 実施内容と頻度

リハビリテーションの実施内容は OT の実施件数が 279 人と多く、次いで PT が 220 人、ST が 80 人となっていた(図 13)。

なお、1 ケースあたりの月平均実施回数は ST が月 14.6 回と最も多くなっていた(図 14)。

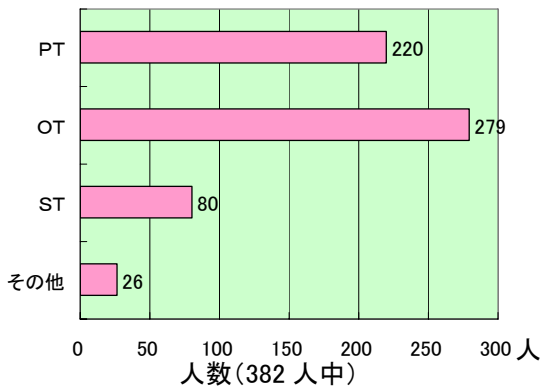


図 13.リハビリテーションの実施件数（延べ）

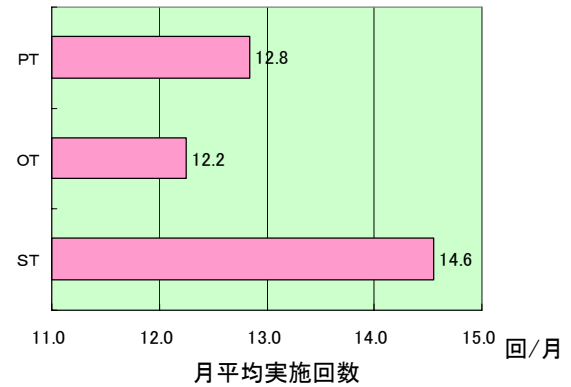


図 14.リハビリテーションの月平均実施回数

(2) リハビリテーションの内容

リハビリテーションの内容は身体的アプローチが 319 人（83.5%）で最も多く、次いで評価、ADL 訓練、認知障害アプローチとなっていた。また、心理学的アプローチ、代償手段の獲得、復学・復職訓練については非常に少ない状況であった（図 15）。

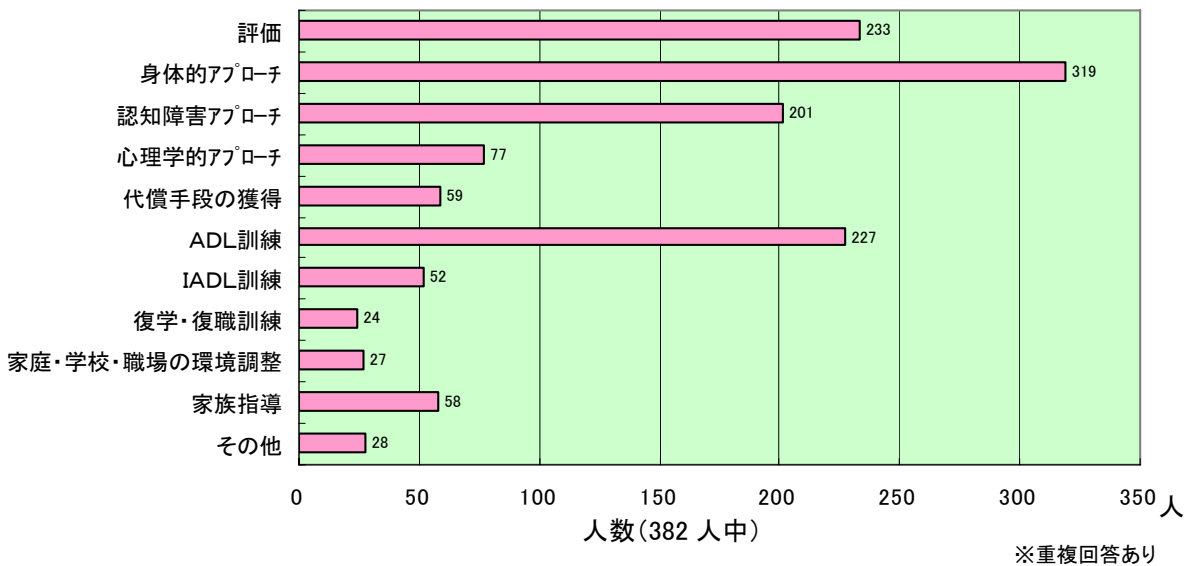


図 15.リハビリテーションの内容

(3) リハビリテーションの課題（自由記載）

自由記載の内容をカテゴリーで分類し、件数の多いものを示した。最も多い課題は意欲低下に関するもので「抑うつや自発性低下、意欲低下」、次いで「注意力低下で危険行為、見守り必要」、「記憶力低下で訓練を覚えられない」、「病識低下で自己認識低下」等であった（表 10）。

5 今後必要なサービス（自由記載）

調査対象者が回答した自由記載の内容をカテゴリーで分類し、件数の多いものを示した。最も必要と感じられるサービスは在宅関係のサービスで、特に「通所系サービス」や「訪問介護」等であった。また、入所施設や社会参加の場も多く必要とされており、特に65歳未満では若年者向けの通所系サービスや施設が必要とされていた（表11）。

表10.現在行っている治療（支援）での課題

| 分類 | 具体的内容 | 件数 |
|---------------|-----------------------|----|
| 意欲低下 | 抑うつや自発性低下・意欲低下 | 31 |
| | 訓練・活動への参加拒否 | 10 |
| | 活動性低下 | 8 |
| | 依存性が高く介助を要す | 8 |
| | 興味を見つめる | 1 |
| 注意障害 | | 55 |
| | 注意力低下で危険行為・見守り必要 | 46 |
| | 左側無視へのアプローチ | 6 |
| | 集中力なく、訓練進まない | 3 |
| 感情コントロール | | 23 |
| | 暴言・暴力等の問題行動 | 12 |
| | 感情コントロールの対応(易怒、落ち着き) | 9 |
| | 異常行動への不安 | 1 |
| | 他者への不満 | 1 |
| 記憶障害 | | 22 |
| | 記憶力低下で訓練覚えられない | 20 |
| | 代償手段(メモ)の利用困難 | 2 |
| 病識 | | 21 |
| | 病識低下で自己認識低下(運転含む) | 21 |
| 遂行障害 | | 15 |
| | 行動の計画立てられない | 6 |
| | 日課や課題を遂行できない | 5 |
| | 合併症等の自己管理困難 | 4 |
| 失語 | | 13 |
| | 失語、記憶障害でコミュニ困難・指示が入らな | 12 |
| | 理解力低下で訓練できない | 1 |
| その他の症状 | | 3 |
| | 徘徊・昼夜逆転 | 2 |
| | ストレスの軽減 | 1 |
| 身体機能・ADL・IADL | | 36 |
| | ADL・IADLスキル向上 | 17 |
| | 麻痺改善 | 10 |
| | 体力・耐久性ない・栄養状態不良 | 5 |
| | 肥満 | 2 |
| | 歩行状態改善 | 1 |
| | 公共交通手段困難 | 1 |
| リハ内容 | | 11 |
| | サービスのなさ(訪問リハ) | 4 |
| | リハのマンパワー不足 | 3 |
| | 目標設定の難しさ | 1 |
| | 動作確認多く治療時間不足 | 1 |
| | 治療継続しないいと悪化の恐れ | 1 |
| | 算定日数上限の影響 | 1 |
| 環境 | | 26 |
| | 退所後の生活・一人暮らし | 9 |
| | 家庭での過ごし方・役割なし | 9 |
| | 環境面の調整・住宅改修 | 8 |
| 復職 | | 9 |
| | 復職・就労の可能性 | 9 |
| 社会参加 | | 4 |
| | 社会参加の場ない、友の会の受け入れ悪い | 4 |
| 経済面 | | 3 |
| | 経済的問題 | 3 |
| 家族 | | 12 |
| | 家族の受け入れ悪い・理解不足 | 10 |
| | 家族の不安軽減・外泊試験 | 2 |
| | 家族の言うこと聞かず、自宅訓練不可 | 0 |
| | 家族の健康指導が難しい | 0 |
| サービス、社会資源 | | 4 |
| | デイサービスやデイケアに移行困難 | 1 |
| | 療養生活上のQOL | 1 |
| | 特養の受け入れ拒否 | 1 |
| | 周囲の理解不足 | 1 |

表11.今後必要と思われる支援や福祉サービス

| 分類 | 内容 | 件数 |
|------|--------------------|----|
| 在宅 | 通所系サービス | 23 |
| | 訪問介護 | 9 |
| | 短期入所生活介護 | 6 |
| | 訪問看護 | 5 |
| | 訪問リハ | 5 |
| | 住宅改修 | 3 |
| | 若年向けグループ | 1 |
| | 若年向け短期入所生活介護 | 1 |
| | 若年向け通所介護 | 1 |
| | 配食サービス | 1 |
| 施設 | | 19 |
| | 生活の場、グループホーム、ケアハウス | 9 |
| | 入所施設 | 6 |
| | 身障施設 | 2 |
| | 若年向け入所施設 | 1 |
| | 療養病棟の存続 | 1 |
| 家族 | | 7 |
| | 家族調整・周囲サポート | 4 |
| | 家族の心理的フォロー | 3 |
| 社会参加 | | 11 |
| | 交流の場 | 4 |
| | 外出の場 | 3 |
| | 若年向け外出の場 | 2 |
| | 外出できるサービス | 2 |
| リハ関係 | | 11 |
| | リハ継続 | 3 |
| | 職場復帰支援 | 3 |
| | 総合的なリハサービス | 3 |
| | 遠方でも支援可能なサービス | 2 |
| 就労 | | 8 |
| | 作業所 | 2 |
| | 若年向けの作業所 | 2 |
| | 再就職できる場 | 2 |
| | ジョブコーチ | 1 |
| | 障害者雇用情報 | 1 |
| その他 | | 5 |
| | カウンセリング | 1 |
| | 家事動作訓練 | 1 |
| | 人的・物的環境支援 | 1 |
| | 経済的支援 | 1 |
| | 後見人制度活用 | 1 |

6 その他分析結果

(1) 疾患の違いによる対象者の特徴《脳血管障害 317 人・外傷性脳損傷 38 人の比較》

身体機能の状況では、外傷性脳損傷は脳血管障害と比べて有意 ($p<0.05$) に麻痺のある割合が低かった (図 16)。

高次脳機能障害の症状の割合では、外傷性脳損傷は脳血管障害と比べて記憶障害、知能障害、遂行機能障害で症状の高い傾向があった (有意差なし) (図 17)。

社会的行動障害の割合では、外傷性脳損傷では全項目で問題のある割合が高く、特に暴言や暴力で有意な差が認められた ($p<0.01$) (図 18)。

ADL、IADL に介助を要する割合では、外傷性脳損傷は脳血管障害と比べて ADL では自立の割合が若干高いものの、IADL では逆に低い傾向があった (有意差なし) (図 19)。

リハビリテーションの課題では外傷性脳損傷は病識低下で自己認識がないことや、暴力・暴言が問題となっており、脳血管障害では注意力低下で危険行為が問題になっていることが多かった。また、必要なサービスでは、外傷性脳損傷では若年者向けの交流場所や通所系のサービスが求められており、脳血管障害は介護保険の通所リハが多く利用されていたが、さらに通所系サービスが求められていた。

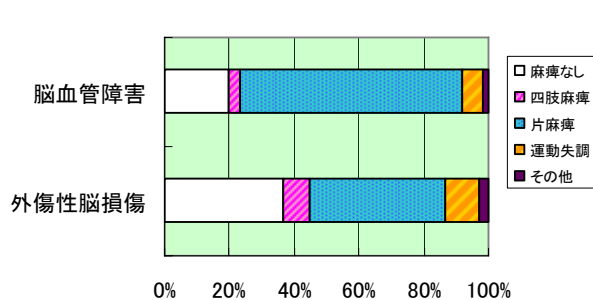


図 16. 身体機能の状況

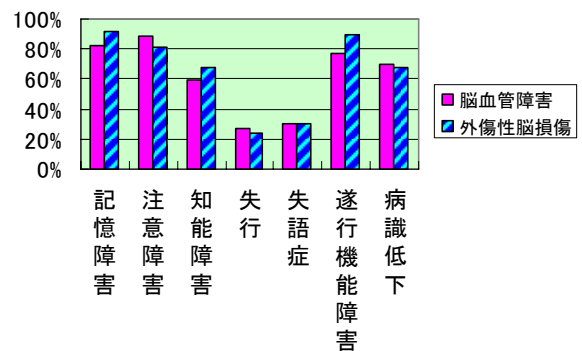


図 17. 高次脳機能障害の症状

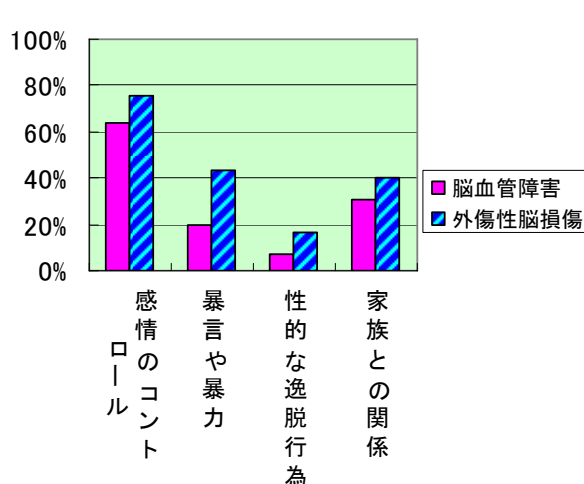


図 18. 社会的行動障害の割合

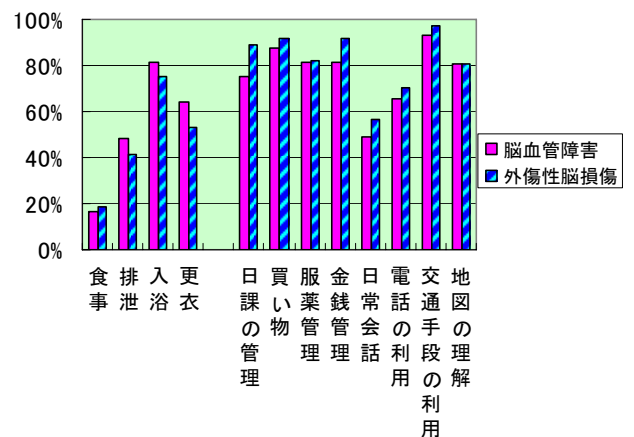


図 19. ADL・IADL に介助を要する割合

(2) 運動麻痺の有無による対象者の特徴（麻痺のある方 285 人、麻痺のない方 97 人）

移動の状況では、運動麻痺のない方は 8 割以上が歩行可能であった ($p<0.01$) (図 20)。

高次脳機能障害の症状では、麻痺のない方はある方と比べて、記憶障害 ($p<0.05$)、知能障害 ($p<0.05$)、遂行機能障害、病識低下の割合が高かった。また、麻痺のある方はない方に比べて、注意障害の割合が高かった ($p<0.05$) (図 21)。

ADL、IADL では、麻痺のない方はある方よりも、ADL すべてにおいて介助の割合が低い（入浴、更衣 $p<0.05$ ）が、IADL では買い物と交通手段の利用以外については介助の割合が高かった (図 22)。

社会的行動障害では、麻痺のない方は感情のコントロールの割合が高く ($p<0.05$)、麻痺のある方は性的な逸脱行為 ($p<0.01$) と家族との関係の問題が高かった (図 23)。

リハビリテーションの課題では、麻痺のない方は記憶障害で訓練を覚えられないことや、病識低下が問題となっていた。また、麻痺のある方は、注意力低下で訓練中転倒の危険性があることが問題となっていた。

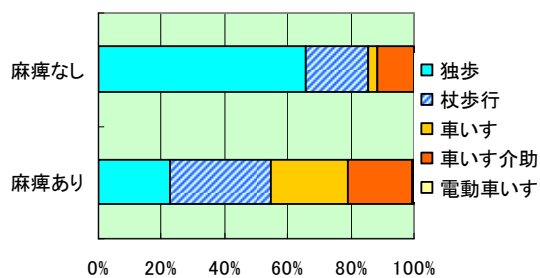


図 20. 高次脳機能障害の症状

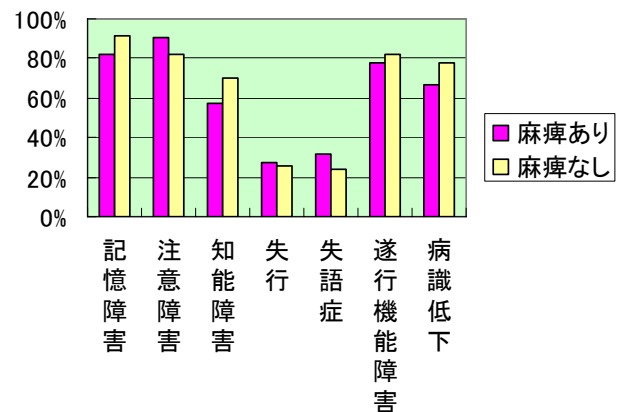


図 21. 高次脳機能障害の症状

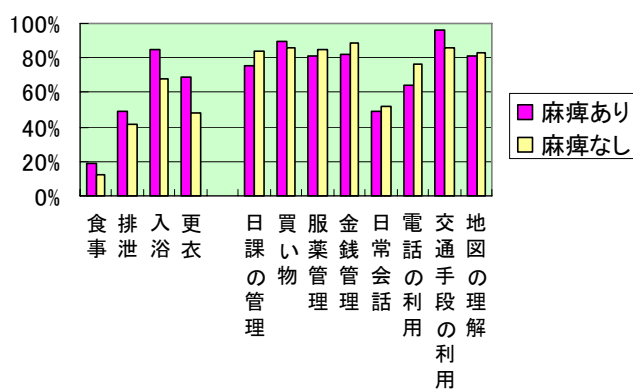


図 22. ADL・IADL に介助を要する割合

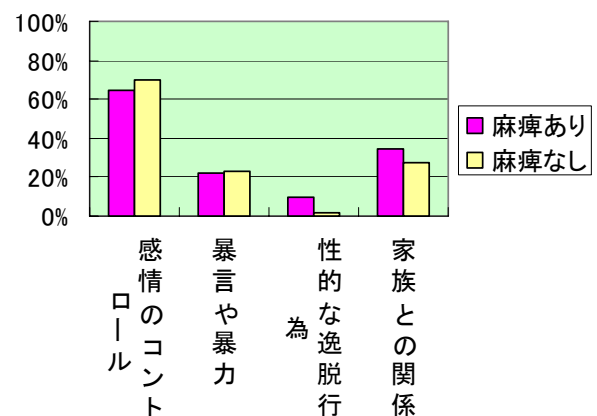


図 23. 社会的行動障害の割合

(3) 発症前の就学・就職状況と現在の状況

発症前に就学していた方は 6 人で、すべての方が退学し、4 人は発症・受傷から 5 年以上が経過していた。また、5 人は通院（外来リハ）のみで、小規模作業所等との併用は 1 人のみであった (表 12)。

仕事をしていた方は主婦も含めて 148 人であり、発症前と同様に復帰できた方は 2 人、対応変更は 6 人 転職は 1 人、休職中は 20 人で、離職は 85 人であった。

なお、復職・転職した方（9 人）と休職・離職した方（105 人）を比較すると、復職・転職した方は運動麻痺が軽度で歩行可能であり、記憶障害、注意障害、知能低下、遂行障害、病識低下、日課の管理、交通手段の利用、感情の爆発、性的逸脱行為、家族との関係で症状や介助の割合が低い傾向があった（有意差なし）（図 24～図 27）。

無職は 125 人で、大半が 65 歳以上の高齢者であった。

表 12.発症・受傷時の就学・就職状況と現在の状況 (単位:人)

| | | 発症前と同様 | 元の学校や職場 | 転校・転職 | 休学・休職中 | 退学・離職 | その他・未記入 | 総計 |
|-----|----------|--------|---------|-------|--------|-------|---------|-----|
| 就学 | 保育園 | | | | | | | |
| | 小・中学校 | | | | | 1 | | 1 |
| | 高校 | | | | | 2 | | 2 |
| | 専門学校 | | | | 1 | 2 | | 3 |
| 就労 | 仕事 | 2 | 5 | 1 | 20 | 83 | 17 | 128 |
| | 家事手伝い・主婦 | | 1 | | | 2 | 17 | 20 |
| その他 | 無職 | | 1 | | 2 | 16 | 106 | 125 |
| | その他・無記入 | | 1 | | | 12 | 90 | 103 |
| | 総計 | 2 | 8 | 1 | 23 | 118 | 230 | 382 |

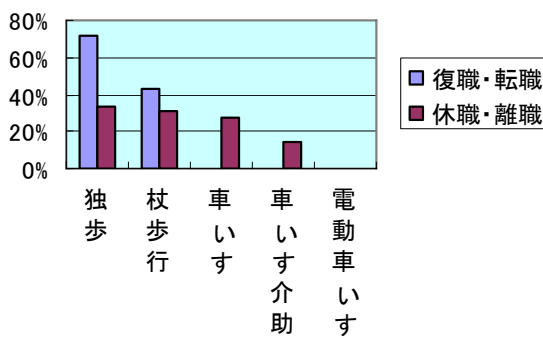


図 24.移動の状況

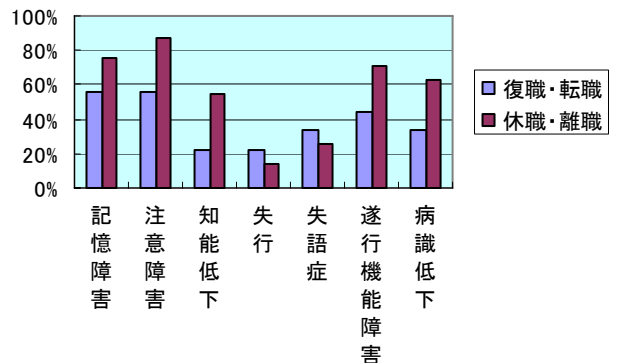


図 25.高次脳機能障害の症状

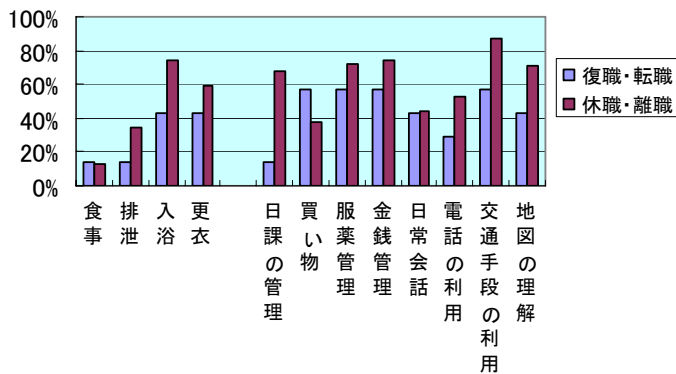


図 26.ADL・IADL に介助を要する割合

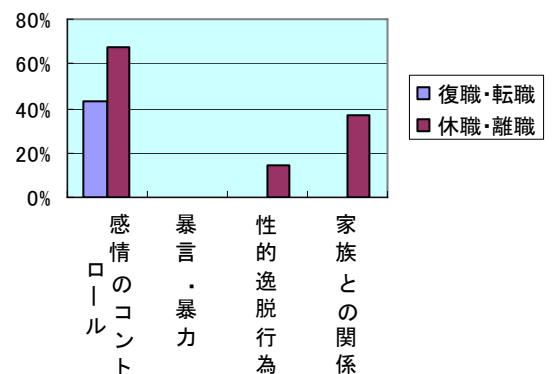


図 27.社会的行動障害の割合

(3) 復学・復職訓練を行っている方の特徴

復学・復職訓練は 24 人に実施しており、全体的な結果（図 5～図 10）と比較すると歩行可能、ADL 自立、IADL は一部介助の方が多い（図 28、図 30、図 31）。高次脳機能障害及び社会的行動障害は全体的に問題のない方や軽度の方の割合が高いが、記憶障害、知能障害、病識低下において重度な方も含まれていた（図 29、図 32）。

リハビリテーションは PT を 9 人、OT を 22 人、ST を 7 人に対して実施しており、発症・受傷からの期間では、1 年未満が 12 名、5 年以上が 6 名であった。リハビリテーションの課題としては復職訓練の内容が乏しいこと、家庭・職場の環境調整が必要なこと、記憶の代償手段獲得方法、自動車運転の危険性、依存性や段取りの悪さの改善が挙げられていた。また、必要なサービスとしては、職業復帰支援、ジョブコーチ、障害者雇用情報提供等が挙げられていた。

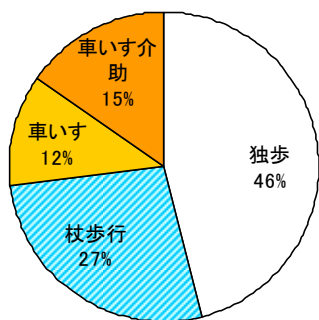


図 28.移動の状況

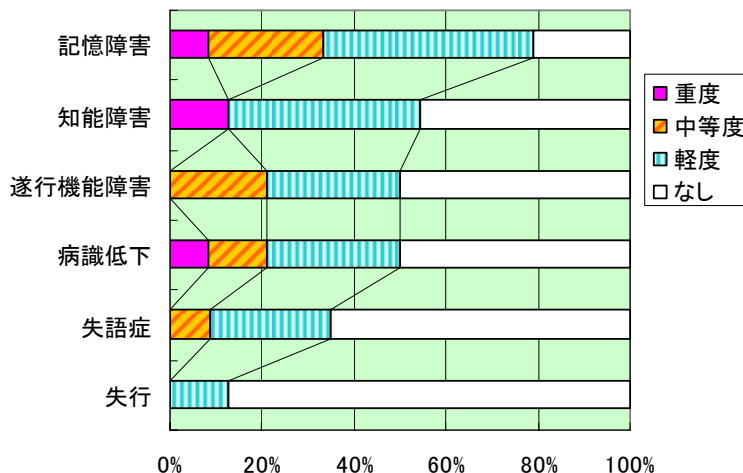


図 29.高次脳機能障害症状の割合

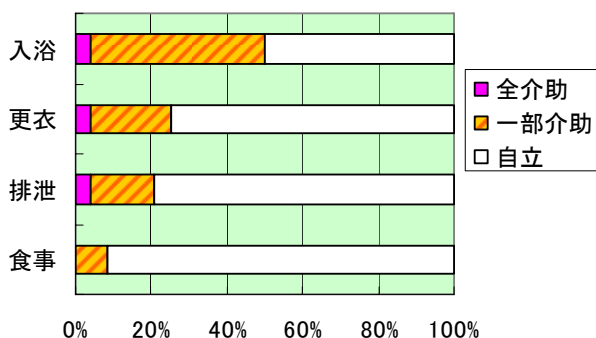


図 30.ADL の状況

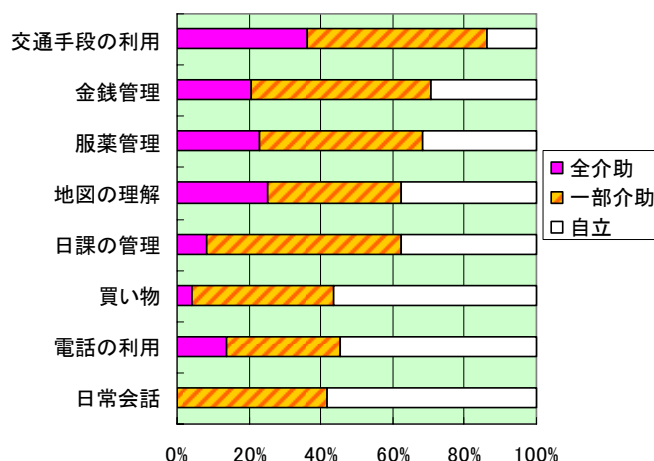


図 31.IADL の状況

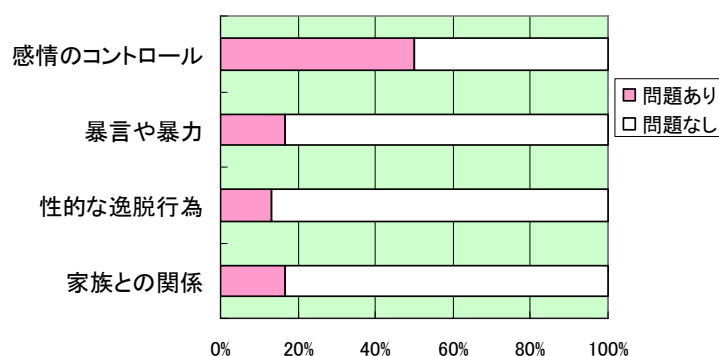


図 32. 社会的行動障害の割合

(4) 手帳・要介護認定と利用サービスの関係

入院、施設を利用している方を除いた在宅者（193 人）の手帳・要介護認定と利用サービスの分析を行った。

身体障害者手帳のみ保有している方は、8 人が福祉サービス等を利用し、18 人はサービスを利用していなかった。要介護認定のみ受けている方は、70 人が介護保険サービス等を利用し、11 人はサービスを利用していなかった。また、身体障害者手帳・介護認定等を併用している方は、64 人が介護保険サービス等を利用し、2 人はサービスを利用していなかった。また、制度やサービスを利用していない方は 20 人であった（表 13）。

表 13. 手帳・要介護認定と利用サービス

(単位: 人)

| | 福祉サービス | 介護保険サービス | 市町事業 | 福祉・介護併用 | 福祉・市町併用 | 介護・市町併用 | すべて利用 | 利用なし | 総計 |
|------------|--------|----------|------|---------|---------|---------|-------|------|-----|
| 身体障害者手帳のみ | 6 | | | | 2 | | | 18 | 26 |
| 療育手帳のみ | | | | | | | | | 0 |
| 精神保健福祉手帳のみ | | | | | | | | | 0 |
| 介護認定のみ | | 70 | | | | | | 11 | 81 |
| 身障・介護認定等併用 | 1 | 43 | | 15 | | 4 | 1 | 2 | 66 |
| 制度利用なし | | | | | | | | 20 | 20 |
| 総計 | 7 | 113 | 0 | 15 | 2 | 4 | 1 | 51 | 193 |

(5) 発症・受傷からの期間による対象者の特徴

発症・受傷からの期間と所在では、6ヶ月未満は 86 人が入院中であり、以後徐々に少なくなっている。また、在宅の方は 6ヶ月以上の多くを占め、3年以上において非常に多くなっている。施設入所については、全時期を通じて同じ程度の人数である（図 33）。

また、発症期間を 6ヶ月未満（111 人）、6ヶ月～1年未満（45 人）、1年～5年未満（126 人）、5年以上（76 人）で分析を行った。高次脳機能障害の症状では記憶障害、注意障害、遂行機能障害、病識低下において高い割合で問題が認められ、遂行機能障害と病識低下については、期間を経るごとに若干割合が低くなる傾向があった（図 34）。ADL について

は、6ヶ月未満は食事や排泄、入浴に介助を要する割合が高い（図 35）。IADL については、どの期間においても介助の割合は高かった。また、社会的行動障害では、暴言・暴力、性的逸脱行為、家族との関係において期間を経るごとに問題の割合が高くなっていった（ $p<0.05$ ）（図 36）。

利用しているサービスについては、発症・受傷1年以降は各期間において15名程度サービスを利用していない方がいた（表 14）。

リハビリテーションについては、5年以上においても月平均8~9回程度実施されており、多くは通所リハや通所介護を利用されていた（図 37）。また、リハビリテーションの内容では、期間が長くなるほど全般的に訓練内容の項目数は減少しているが、身体的アプローチのみ多い回数となっていた。なお、1年以上で通院（外来リハ）のみの方は13人おり、高次脳機能障害者に対応した通所施設や作業所、入所施設を希望されていた。

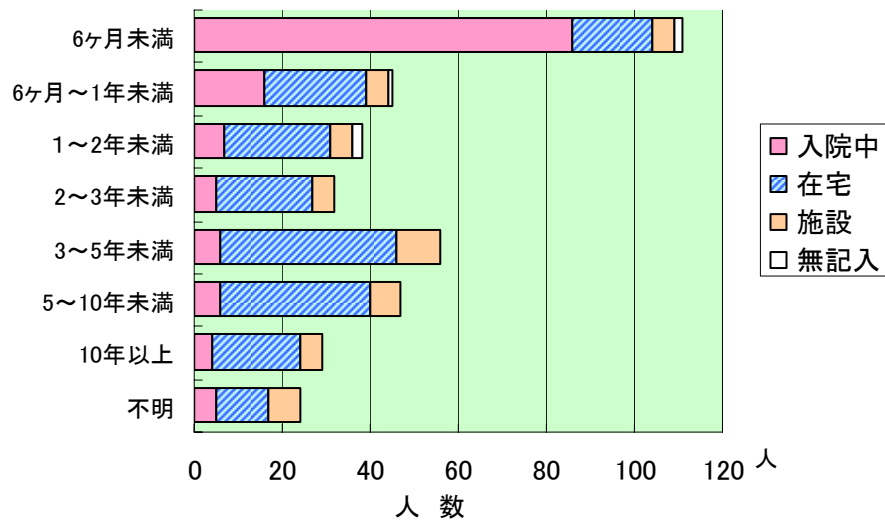


図 33.発症からの期間と所在

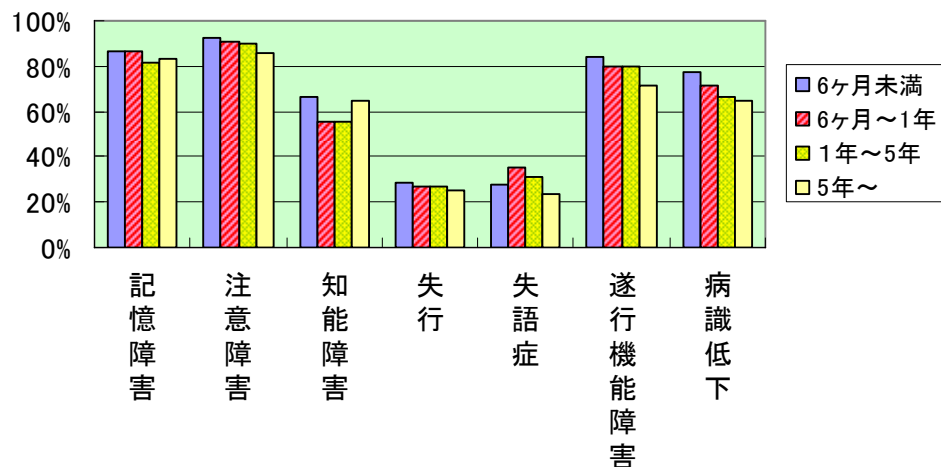


図 34.高次脳機能障害症状の割合

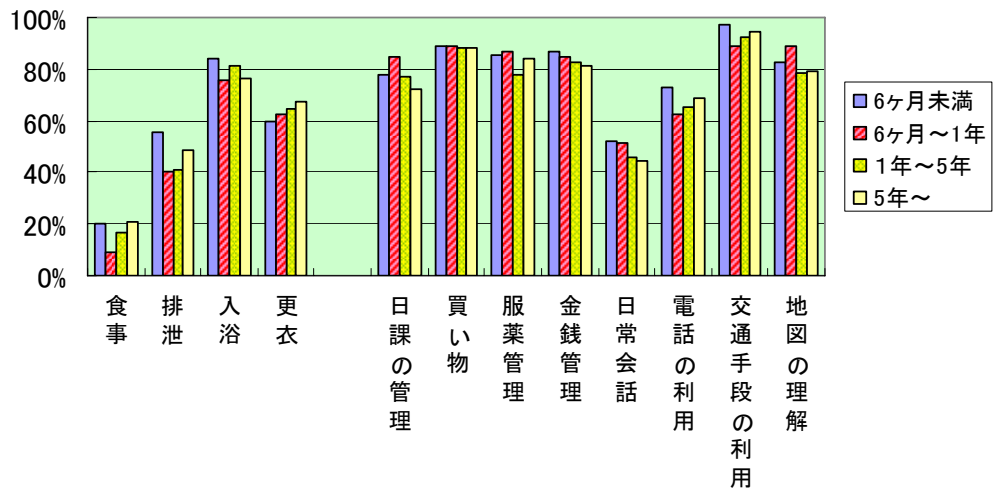


図 35. ADL・IADL に介助を要する割合

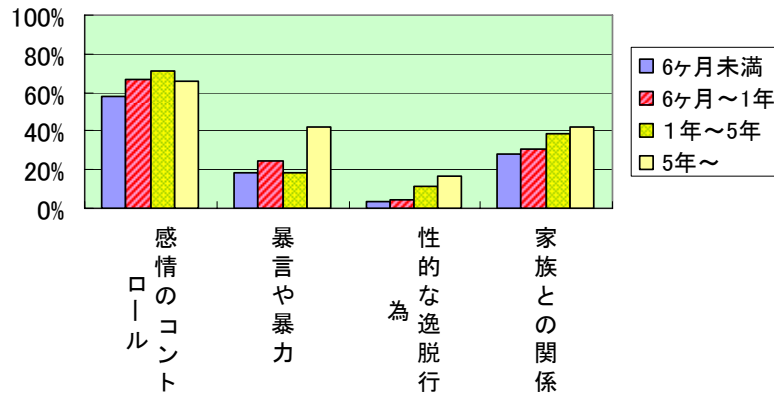


図 36. 社会的行動障害の割合

表 14. 発症期間とサービスの利用

(単位: 人)

| | 福祉サービス | 介護保険サービス | 市町事業 | 福祉・介護併用 | 福祉・市町併用 | 介護・市町併用 | すべて利用 | 利用なし | 総計 |
|----------|--------|----------|------|---------|---------|---------|-------|------|-----|
| 6ヶ月未満 | 1 | 15 | | | | | | 95 | 111 |
| 6ヶ月～1年未満 | 1 | 16 | | 2 | | | | 26 | 45 |
| 1～2年未満 | 1 | 20 | | 3 | | 1 | | 13 | 38 |
| 2～3年未満 | 2 | 14 | | 1 | | 1 | | 14 | 32 |
| 3～5年未満 | 5 | 27 | | 7 | 1 | 1 | | 15 | 56 |
| 5～10年未満 | 1 | 25 | | 2 | 1 | | 1 | 17 | 47 |
| 10年以上 | | 12 | | 1 | | 1 | | 15 | 29 |
| 不明 | 1 | 8 | | 1 | | | | 14 | 24 |
| 総計 | 12 | 137 | | 17 | 2 | 4 | 1 | 209 | 382 |

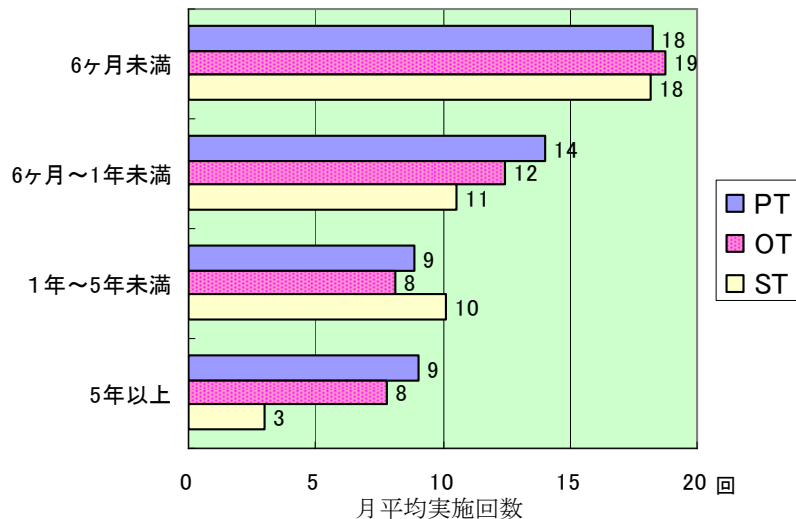


図 37.リハビリテーションの月平均実施回数

III 考察

1. 高次脳機能障害の発生数の推計（1年間）

発症・受傷期間の6ヶ月未満、6ヶ月から1年未満の人数はそれぞれ111人、45人であり、1年間における高次脳機能障害のある方の把握数は156人と推計された。

また、今回の調査ではPT、OT、STによるリハビリテーションが実施されている方の人数を把握したため、PT、OT、STを受けていない方（1年以内に終了した方）も含めると発生数はそれ以上と推測された。

2. 高次脳機能障害の特徴

高次脳機能障害の主な症状は注意障害、記憶障害、計画的行動の遂行機能障害、病識の低下の割合が高く、国が示した高次脳機能障害の症状と同様の結果であった¹⁾。

原因疾患は脳血管障害、外傷性脳損傷が主であり、外傷性脳損傷の特徴は脳血管障害に比べて運動麻痺や歩行障害は軽度あるが、記憶障害や計画的行動の遂行機能障害、社会適応障害が重度な傾向があった。また、ADLにおいては自立している割合が高いにもかかわらず、IADLで困難が生じていた。さらに、外傷性脳損傷は社会的行動障害が重度であった。以上のことから、外傷性脳損傷は運動麻痺よりも、高次脳機能障害の影響で社会的な生活を送ることが困難となっていることが示唆された。

また、脳血管障害では記憶障害や計画的行動の遂行障害は外傷性脳損傷よりも軽度であるが、注意障害が重度であり、運動麻痺による歩行障害や動作障害も加わることから、基本的なADLに支障をきたしていたと考えられた。

3. サービスの利用について

高次脳機能障害の方の手帳や要介護認定の状況では、25.7%がいずれも利用しておらず、6ヶ月以上経過しても13.3%の方が未利用で、高次脳機能障害への認識や理解不足、利用可能な制度の周知不足等が考えられた。

また、セラピストのニーズとしては、若年者向けの通所サービスや授産施設、作業所等

が挙げられており、いかに高次脳機能障害のある方の利用できるサービスが不足しており、理解されていないかが推測され、今後これら高次脳機能障害のある方の受け皿を整備したり、啓発普及することが必要であると考えられた。

4. 復学・復職について

高次脳機能障害のある方の復学・復職については、可能であった方は配置転換などの工夫、転職も含めて 12 人（3.1%）であった。また、ほとんどが自営業などの限られた環境であり、現状でリハビリテーションを受けている人々が元の職場に復帰することは非常に困難であることが推測された。

また、リハビリテーションについては、復学・復職のプログラムを実施しているケースは 24 人（6.3%）と少数であった。ケースの詳細では、記憶障害や注意障害が重度な方や、暴言、暴力等の社会的行動障害を伴う方がいることや、復学・復職の可能性を見極めることがリハビリテーションの課題に挙げられており、評価とプログラム立案・実施に対する技術的な難しさが推測された。

なお、これらの問題を解決する手段としては、高次脳機能障害の専門的な拠点や専門スタッフによるリハビリテーション技術の相談支援や模擬職場を利用した就労準備体制や障害者就労センター・ハローワーク等、関係機関との連携推進等が必要と考えられた。

5. リハビリテーションの実態について

高次脳機能障害の方は、6 ヶ月以降も 5 年、10 年と長期間に渡ってリハビリテーションを受けている方が多いが、内容としては、身体的アプローチや ADL 訓練が中心で、認知障害に対するアプローチが少なく、障害とアプローチ内容に食い違いがあることが推測された。また、長期にリハビリテーションを受けている方には暴言・暴力、性的逸脱行為といった社会的行動障害の影響もあり、通院（外来リハ）のみで福祉や介護保険サービスへの受け入れが困難な方も多くおり、高次脳機能障害に対する専門的な技術を兼ね備えた社会的な受け皿の整備も必要であると考えられた。

6. 今後について

今回はセラピストからみた高次脳機能障害の課題調査であり、様々なニーズや課題を把握することができたが、本人・家族の高次脳機能障害に対する認識や実生活で問題としていること、訓練に期待していることについては不明なことも多く、今後の支援を考える際には、本人・家族のニーズについても把握していく必要があると考えられた。

IV まとめ

1. 石川県内のリハビリテーション実施施設に対して、高次脳機能障害の実態やリハビリテーション実施上の課題、今後必要なサービス等の調査を実施した。
2. 石川県における高次脳機能障害の方の発生件数は年間計 156 人以上（リハビリテーションを受けている方の調査のため）と推計された。
3. 高次脳機能障害の原因は脳血管障害が最も多く、次いで外傷性脳損傷であり、脳血管障害よりも外傷性脳損傷の方が高次脳機能障害は重度な傾向があった。
4. 65 歳未満の若年者では福祉サービスや市町事業は利用せず、通院（外来リハ）のみの方が多く、若年者への通所できる場所（通所施設、作業所、授産所等）が必要であった。
5. 復学や復職している方や訓練を行っている方は非常に少なく、高次脳機能障害のある方への社会復帰へのアプローチに対して専門的な相談体制や関係機関との連携が必要であった。
6. 今後は本人・家族の高次脳機能障害に対する認識や課題等を把握しながら支援を行っていく必要性があった。

参考文献

1. 高次脳機能障害支援コーディネーター研究会：高次脳機能障害支援コーディネーターマニュアル，2006
2. 阿部順子：脳外傷者の社会生活を支援するリハビリテーション，中央法規出版株式会社，1999.

本調査における高次脳機能障害の定義

「高次脳機能障害」は、学術用語としては、脳損傷に起因する認知障害全般を指しますが、今回の調査においては、厚生労働省が行った高次脳機能障害モデル事業に準じ、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などを主な症状とし、社会生活への不適応を有するにも関わらず、十分な支援が提供されていない方を対象とします。

ただし、失語症が主たる障害の方、身体障害が重度で常に介護が必要な方は、今回の対象とはしません。

なお、高次脳機能障害の診断基準及び4つの障害を以下に示します。

高次脳機能障害の診断基準（高次脳機能障害支援モデル事業より引用）

I. 主要症状等

1. 脳の器質的病変の原因となる事故による受傷や疾病の発症の事実が確認されている。
2. 現在、日常生活または社会生活に制約があり、その主たる原因が記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害である。

II. 検査所見

MRI、CT、脳波などにより認知障害の原因と考えられる脳の器質的病変の存在が確認されているか、あるいは診断書により脳の器質的病変が存在したと確認できる。

III. 除外項目

1. 脳の器質的病変に基づく認知障害のうち、身体障害として認定可能である症状を有するが上記主要症状(I-2)を欠く者は除外する。
2. 診断にあたり、受傷または発症以前から有する症状と検査所見は除外する。
3. 先天性疾患、周産期における脳損傷、発達障害、進行性疾患を原因とする者は除外する。

IV. 診断

1. I～IIIをすべて満たした場合に高次脳機能障害と診断する。
2. 高次脳機能障害の診断は脳の器質的病変の原因となった外傷や疾病の急性期症状を脱した後において行う。
3. 神経心理学的検査の所見を参考にすることができる。

高次脳機能障害における4つの障害（高次脳機能障害支援モデル事業より引用）

- ①記憶障害: 新しいことが覚えられない、以前のことを思い出せない。
- ②注意障害: ぼんやりしてミスをする。同時に2つのことをできない。
- ③遂行機能障害: 自分で計画を立てることができず指示を要する。
- ④社会的行動障害: 依存性、退行(人に頼る子供っぽい)感情のコントロール、欲求コントロール低下、意欲・発動性低下、抑うつ的、固執性、対人との関係をつくれぬ。

高次脳機能障害患者状況調査

機関名

記入者 (リハ Dr・PT・OT・ST)

この調査票は貴施設において入院（入所）、通院（通所）、訪問されている患者さん一人に一部記入してください。

【基本的事項についてお尋ねします。】

問1 平成18年7月1日現在で何歳ですか。

(歳)

問2 性別は何ですか。

1. 男 2. 女

問3 住所はどこですか。

(市・町)

問4 高次脳機能障害の原因は何ですか。

1. 脳血管障害 2. 外傷性脳損傷 3. 脳腫瘍 4. 一酸化炭素中毒
5. 脳炎 6. 低酸素脳症 7. その他 ()

問4-1 問4で2. 外傷性脳損傷の場合は何による外傷ですか。

1. 交通事故 2. 転落 3. その他 ()

問5 原因となる疾患が発症したのはいつですか、西暦で教えてください。

(年 月)

問6 発症時の就学・就労状況について選んでください。

1. 保育所・幼稚園に行っていた 2. 小・中学校に行っていた
3. 高校に行っていた 4. 専門学校・短大・大学などに行っていた
5. 仕事についていた 6. その他 ()

【現在の本人の状況についてお尋ねします。】

問7 現在の入院（入所）・通院（通所）・訪問の状況について選んでください
(複数回答可)。

1. 入院中 2. 通院中 3. 入所中 4. 通所中 5. 訪問リハ

問8 現在、障害者手帳をもっていますか、当てはまるものを選んでください。

1. 身体障害者手帳 (1, 2, 3, 4, 5, 6級)
2. 療育手帳 (A I, A II, B I, B II) 3. 精神障害者手帳 (1, 2, 3級)
4. 持っていない

問9 現在、要介護認定を受けていますか。受けている場合は要介護度を選んでください。

1. 受けている 要支援（1， 2）、要介護（1， 2， 3， 4， 5）
2. 受けていない

問10 現在の症状について選んでください。

ア 身体症状について（複数回答可）

1. 麻痺なし 2. 四肢麻痺 3. 片麻痺 4. 運動失調 5. その他（ ）

イ 記憶障害について

1. なし 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度

ウ 注意障害について

1. なし 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度

エ 知能低下について

1. なし 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度

オ 失行について

1. なし 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度

カ 失語症について

1. なし 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度

キ 計画的行動の遂行障害について

1. なし 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度

ク 病職の低下について

1. なし 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度

問11 現在のADL（日常生活動作）について選んでください。

ア 移動について

1. 独歩 2. 杖または装具、歩行用具での歩行 3. 車いす自走
4. 車いす介助 5. 電動車いす

イ 食事について

1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助

ウ 排泄について

1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助

エ 入浴について

1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助

オ 更衣について

1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助

問12 現在のIADL（手段的日常生活動作）について選んでください。

ア 日課の管理について

1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助

- イ 買い物について
 - 1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助
- ウ 服薬管理について
 - 1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助
- エ 金銭管理について
 - 1. 自立 2. 部分介助 3. 全介助
- オ 日常会話について
 - 1. 良好 2. やや困難 3. 困難
- カ 電話の利用について
 - 1. 自立 2. 要介助 3. 不可能
- キ 交通手段の利用について
 - 1. 自立 2. 部分介助 3. 不可能
- ク 地図（道順）の理解について
 - 1. 良好 2. やや困難 3. 困難

問 13 発症前と比べて性格・行動や人間関係は変わりましたか。

- ア 感情のコントロールについて（複数選択可）
 - 1. 問題なし 2. 抑うつ的 3. 感情の爆発 4. 気分変調 5. 自発的低下
- イ 暴言や暴力について
 - 1. なし 2. 時々あり 3. 頻繁にあり
- ウ 性的な逸脱行為について
 - 1. なし 2. 時々あり 3. 頻繁にあり
- エ 家族との関係について
 - 1. 問題なし 2. やや問題あり 3. 問題あり

問 14 本人の就学・就労状況について選んでください。

- 1. 発症前と同様に就学・就労している。
- 2. 元の学校や職場に戻ったが、対応を変更したり配置転換をした。
（具体的に _____ ）
- 3. 転校、転職 4. 休学、休職中 5. 退学、離職
- 6. その他（ _____ ）

問 15 本人が現在受けている支援やサービスについて選んでください（複数回答可）。

- ア 福祉サービスについて
 - 1. 訪問介護 2. 通所介護 3. 授産所 4. 小規模作業所
 - 5. その他（ _____ ）
- イ 介護保険について
 - 1. 訪問介護 2. 訪問看護 3. 通所介護 4. 通所リハ 5. その他（ _____ ）

ウ 市町のサービスについて

1. 介護予防事業 2. 機能訓練事業 3. 訪問指導 4. その他 ()

エ その他 ()

【貴施設で実施されているリハビリテーションの内容についてお尋ねします。】

問 16 リハビリテーションは何をどの程度していますか。(複数選択可)

1. PT (約 回/月) 2. OT (約 回/月) 3. ST (約 回/月)
4. その他 ()

問 17 リハビリテーションのアプローチは何を行っていますか。(複数選択可)

1. 評価 (診断書用の評価含む)
2. 身体的アプローチ (運動療法や麻痺に対するアプローチ)
3. 認知障害に対するアプローチ (認知リハビリテーション)
4. 心理学的アプローチ (障害の認識を高める等)
5. 代償手段の獲得
6. ADL 訓練
7. IADL 訓練
8. 復学・復職訓練 (学習活動、対人関係、自動車、パソコン、作業活動、その他)
9. 家庭・学校・職場の環境調整 (物理的、人的)
10. 家族指導
11. その他 ()

問 18 現在行っている治療 (支援) での課題や問題は何ですか。

【このケースの方に、現在または今後必要と思われる支援や福祉サービス等があれば記載して下さい。】

ご協力ありがとうございました。

分析の対象者数：382人

【基本的事項】

表1. 性別

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 男 | 97 | 72.9% | 132 | 53.0% | 229 | 59.9% |
| 女 | 35 | 26.3% | 116 | 46.6% | 151 | 39.5% |
| 無記入 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |

表2. 年齢構成

| | 人数 | 割合 |
|----------|-----|-------|
| ～18歳未満 | 1 | 0.3% |
| 18～40歳未満 | 16 | 4.2% |
| 40～65歳未満 | 116 | 30.4% |
| 65～75歳未満 | 106 | 27.7% |
| 75歳以上 | 143 | 37.4% |

表3. 各機関における把握人数と割合

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 病院(一般) | 80 | 60.2% | 141 | 56.6% | 221 | 57.9% |
| 病院(精神) | 7 | 5.3% | 1 | 0.4% | 8 | 2.1% |
| 診療所(一般) | 5 | 3.8% | 7 | 2.8% | 12 | 3.1% |
| 診療所(精神) | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 老人保健施設 | 12 | 9.0% | 44 | 17.7% | 56 | 14.7% |
| 通所リハ | 8 | 6.0% | 34 | 13.7% | 42 | 11.0% |
| 老人福祉施設 | 0 | 0.0% | 13 | 5.2% | 13 | 3.4% |
| 通所介護 | 1 | 0.8% | 2 | 0.8% | 3 | 0.8% |
| 訪問看護(訪問リハ) | 6 | 4.5% | 7 | 2.8% | 13 | 3.4% |
| 身障更生施設 | 6 | 4.5% | 0 | 0.0% | 6 | 1.6% |
| 身障療護施設 | 8 | 6.0% | 0 | 0.0% | 8 | 2.1% |

表4. 2次医療圏域別の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 南加賀 | 17 | 12.8% | 35 | 14.1% | 52 | 13.6% |
| 石川中央 | 32 | 24.1% | 44 | 17.7% | 76 | 19.9% |
| 能登中部 | 15 | 11.3% | 40 | 16.1% | 55 | 14.4% |
| 能登北部 | 18 | 13.5% | 32 | 12.9% | 50 | 13.1% |
| (再掲)金沢市 | 48 | 36.1% | 95 | 38.2% | 143 | 37.4% |
| 不明 | 3 | 2.3% | 3 | 1.2% | 6 | 1.6% |

表5. 原因疾患別の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 脳血管障害 | 103 | 77.4% | 214 | 85.9% | 317 | 83.0% |
| 外傷性脳損傷 | 19 | 14.3% | 19 | 7.6% | 38 | 9.9% |
| 脳腫瘍 | 3 | 2.3% | 2 | 0.8% | 5 | 1.3% |
| 一酸化炭素 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |
| 脳炎 | 0 | 0.0% | 1 | 0.4% | 1 | 0.3% |
| 低酸素 | 3 | 2.3% | 4 | 1.6% | 7 | 1.8% |
| その他 | 2 | 1.5% | 12 | 4.8% | 14 | 3.7% |

表6. 外傷性脳損傷の内訳

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|------|----|------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 交通事故 | 14 | 10.5% | 5 | 2.0% | 19 | 5.0% |
| 転落 | 2 | 1.5% | 13 | 5.2% | 15 | 3.9% |
| その他 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |

表7. 受傷・発症期間別の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 6ヶ月未満 | 34 | 25.6% | 77 | 30.9% | 111 | 29.1% |
| 6ヶ月～1年未満 | 20 | 15.0% | 25 | 10.0% | 45 | 11.8% |
| 1～2年未満 | 13 | 9.8% | 25 | 10.0% | 38 | 9.9% |
| 2～3年未満 | 13 | 9.8% | 19 | 7.6% | 32 | 8.4% |
| 3～5年未満 | 17 | 12.8% | 39 | 15.7% | 56 | 14.7% |
| 5～10年未満 | 17 | 12.8% | 30 | 12.0% | 47 | 12.3% |
| 10年以上 | 16 | 12.0% | 13 | 5.2% | 29 | 7.6% |
| 不明 | 3 | 2.3% | 21 | 8.4% | 24 | 6.3% |

表8. 受傷・発症時の就学・就労状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 保育園 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 小・中学校 | 1 | 0.8% | 0 | 0.0% | 1 | 0.3% |
| 高校 | 2 | 1.5% | 0 | 0.0% | 2 | 0.5% |
| 専門学校 | 3 | 2.3% | 0 | 0.0% | 3 | 0.8% |
| 仕事 | 95 | 71.4% | 33 | 13.3% | 128 | 33.5% |
| 家事手伝い | 1 | 0.8% | 3 | 1.2% | 4 | 1.0% |
| 主婦 | 6 | 4.5% | 10 | 4.0% | 16 | 4.2% |
| 無職 | 11 | 8.3% | 114 | 45.8% | 125 | 32.7% |
| その他 | 8 | 6.0% | 67 | 26.9% | 75 | 19.6% |
| 無記入 | 6 | 4.5% | 22 | 8.8% | 28 | 7.3% |

【現在の本人の状況】

表 9. 現在の入院（入所）・通院（通所）状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 入院中 | 35 | 26.3% | 100 | 40.2% | 135 | 35.3% |
| 通院中 | 48 | 36.1% | 54 | 21.7% | 102 | 26.7% |
| 入所中 | 16 | 12.0% | 33 | 13.3% | 49 | 12.8% |
| 通所中 | 34 | 25.6% | 78 | 31.3% | 112 | 29.3% |
| 訪問リハ | 10 | 7.5% | 7 | 2.8% | 17 | 4.5% |

表 10. 手帳の保有状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 身体障害者 | 69 | 51.9% | 55 | 22.1% | 124 | 32.5% |
| 再掲 1 級 | 35 | 26.3% | 24 | 9.6% | 59 | 15.4% |
| 2 級 | 19 | 14.3% | 15 | 6.0% | 34 | 8.9% |
| 3 級 | 5 | 3.8% | 5 | 2.0% | 10 | 2.6% |
| 4 級 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |
| 5 級 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |
| 6 級 | 4 | 3.0% | 0 | 0.0% | 4 | 1.0% |
| 記載なし | 4 | 3.0% | 9 | 3.6% | 13 | 3.4% |
| 療育手帳 | 0 | 0.0% | 1 | 0.4% | 1 | 0.3% |
| 精神手帳 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |
| 持ってない | 65 | 48.9% | 193 | 77.5% | 258 | 67.5% |

表 11. 介護保険の利用状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 介護保険利用 | 53 | 41.4% | 184 | 74.7% | 237 | 62.0% |
| 再掲要支援1 | 2 | 1.5% | 6 | 2.4% | 8 | 2.1% |
| 要支援2 | 3 | 2.3% | 8 | 3.2% | 11 | 2.9% |
| 要介護1 | 11 | 8.3% | 33 | 13.3% | 44 | 11.5% |
| 要介護2 | 19 | 14.3% | 40 | 16.1% | 59 | 15.4% |
| 要介護3 | 14 | 10.5% | 73 | 29.3% | 87 | 22.8% |
| 要介護4 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 要介護5 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 記載なし | 4 | 3.0% | 24 | 9.6% | 28 | 7.3% |
| 介護保険利用なし | 80 | 53.4% | 65 | 21.3% | 145 | 38.0% |

表 12. 身体機能の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 麻痺なし | 27 | 20.3% | 70 | 28.1% | 97 | 25.4% |
| 四肢麻痺 | 7 | 5.3% | 8 | 3.2% | 15 | 3.9% |
| 片麻痺 | 92 | 69.2% | 154 | 61.8% | 246 | 64.4% |
| 運動失調 | 9 | 6.8% | 19 | 7.6% | 28 | 7.3% |
| その他 | 2 | 1.5% | 8 | 3.2% | 10 | 2.6% |

表 13. 記憶障害の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 27 | 20.3% | 33 | 13.3% | 60 | 15.7% |
| 軽度 | 53 | 39.8% | 88 | 35.3% | 141 | 36.9% |
| 中等度 | 37 | 27.8% | 95 | 38.2% | 132 | 34.6% |
| 重度 | 12 | 9.0% | 33 | 13.3% | 45 | 11.8% |

表 14. 注意障害の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 19 | 14.3% | 24 | 9.6% | 43 | 11.3% |
| 軽度 | 61 | 45.9% | 103 | 41.4% | 164 | 42.9% |
| 中等度 | 37 | 27.8% | 95 | 38.2% | 132 | 34.6% |
| 重度 | 12 | 9.0% | 25 | 10.0% | 37 | 9.7% |

表 15. 知能障害の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 合計 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 56 | 42.1% | 90 | 36.1% | 146 | 38.2% |
| 軽度 | 52 | 39.1% | 86 | 34.5% | 138 | 36.1% |
| 中等度 | 14 | 10.5% | 50 | 20.1% | 64 | 16.8% |
| 重度 | 6 | 4.5% | 18 | 7.2% | 24 | 6.3% |

表 16. 失行の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 112 | 84.2% | 165 | 66.3% | 277 | 72.5% |
| 軽度 | 14 | 10.5% | 48 | 19.3% | 62 | 16.2% |
| 中等度 | 5 | 3.8% | 30 | 12.0% | 35 | 9.2% |
| 重度 | 2 | 1.5% | 4 | 1.6% | 6 | 1.6% |

表 17. 失語症の状況

| 失語症 | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 91 | 68.4% | 176 | 70.7% | 267 | 69.9% |
| 軽度 | 16 | 12.0% | 31 | 12.4% | 47 | 12.3% |
| 中等度 | 11 | 8.3% | 29 | 11.6% | 40 | 10.5% |
| 重度 | 14 | 10.5% | 11 | 4.4% | 25 | 6.5% |

表 18. 計画的行動の遂行機能障害の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 38 | 28.6% | 40 | 16.1% | 78 | 20.4% |
| 軽度 | 41 | 30.8% | 98 | 39.4% | 139 | 36.4% |
| 中等度 | 37 | 27.8% | 83 | 33.3% | 120 | 31.4% |
| 重度 | 13 | 9.8% | 23 | 9.2% | 36 | 9.4% |

表 19. 病識の低下の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 合計 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 50 | 37.6% | 63 | 25.3% | 113 | 29.6% |
| 軽度 | 46 | 34.6% | 98 | 39.4% | 144 | 37.7% |
| 中等度 | 23 | 17.3% | 69 | 27.7% | 92 | 24.1% |
| 重度 | 9 | 6.8% | 17 | 6.8% | 26 | 6.8% |

表 20. 移動の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 独歩 | 53 | 39.8% | 79 | 31.7% | 132 | 34.6% |
| 杖歩行 | 38 | 28.6% | 77 | 30.9% | 115 | 30.1% |
| 車いす | 34 | 25.6% | 42 | 16.9% | 76 | 19.9% |
| 車いす介助 | 16 | 12.0% | 56 | 22.5% | 72 | 18.8% |
| 電動車いす | 1 | 0.8% | 0 | 0.0% | 1 | 0.3% |

表 21. 食事の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 117 | 88.0% | 197 | 79.1% | 314 | 82.2% |
| 部分介助 | 15 | 11.3% | 49 | 19.7% | 64 | 16.8% |
| 全介助 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |

表 22. 排泄の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 合計 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 92 | 69.2% | 108 | 43.4% | 200 | 52.4% |
| 部分介助 | 28 | 21.1% | 115 | 46.2% | 143 | 37.4% |
| 全介助 | 12 | 9.0% | 25 | 10.0% | 37 | 9.7% |

表 23. 入浴の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 合計 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 39 | 29.3% | 36 | 14.5% | 75 | 19.6% |
| 部分介助 | 70 | 52.6% | 145 | 58.2% | 215 | 56.3% |
| 全介助 | 23 | 17.3% | 66 | 26.5% | 89 | 23.3% |

表 24. 更衣の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 65 | 48.9% | 74 | 29.7% | 139 | 36.4% |
| 部分介助 | 50 | 37.6% | 133 | 53.4% | 183 | 47.9% |
| 全介助 | 17 | 12.8% | 40 | 16.1% | 57 | 14.9% |

表 25. 日課の管理の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 44 | 33.1% | 40 | 16.1% | 84 | 22.0% |
| 部分介助 | 56 | 42.1% | 103 | 41.4% | 159 | 41.6% |
| 全介助 | 30 | 22.6% | 104 | 41.8% | 134 | 35.1% |

表 26. 買い物の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 26 | 19.5% | 17 | 6.8% | 43 | 11.3% |
| 部分介助 | 47 | 35.3% | 62 | 24.9% | 109 | 28.5% |
| 全介助 | 55 | 41.4% | 165 | 66.3% | 220 | 57.6% |

表 27. 服薬管理の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 35 | 26.3% | 30 | 12.0% | 65 | 17.0% |
| 部分介助 | 49 | 36.8% | 93 | 37.3% | 142 | 37.2% |
| 全介助 | 42 | 31.6% | 121 | 48.6% | 163 | 42.7% |

表 28. 金銭管理の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 合計 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 31 | 23.3% | 29 | 11.6% | 60 | 15.7% |
| 部分介助 | 49 | 36.8% | 69 | 27.7% | 118 | 30.9% |
| 全介助 | 48 | 36.1% | 146 | 58.6% | 194 | 50.8% |

表 29. 日常会話の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 良好 | 70 | 52.6% | 119 | 47.8% | 189 | 49.5% |
| やや困難 | 41 | 30.8% | 104 | 41.8% | 145 | 38.0% |
| 困難 | 21 | 15.8% | 23 | 9.2% | 44 | 11.5% |

表 30. 電話利用の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 60 | 45.1% | 60 | 24.1% | 120 | 31.4% |
| 要介助 | 30 | 22.6% | 93 | 37.3% | 123 | 32.2% |
| 不可能 | 37 | 27.8% | 89 | 35.7% | 126 | 33.0% |

表 31. 交通手段の利用の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 17 | 12.8% | 7 | 2.8% | 24 | 6.3% |
| 要介助 | 53 | 39.8% | 86 | 34.5% | 139 | 36.4% |
| 不可能 | 59 | 44.4% | 147 | 59.0% | 206 | 53.9% |

表 32. 地図（道順）の理解の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 合計 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 自立 | 36 | 27.1% | 32 | 12.9% | 68 | 17.8% |
| 要介助 | 48 | 36.1% | 69 | 27.7% | 117 | 30.6% |
| 不可能 | 44 | 33.1% | 142 | 57.0% | 186 | 48.7% |

表 33. 感情のコントロールの状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 問題なし | 40 | 30.1% | 91 | 36.5% | 131 | 34.3% |
| 抑うつ的 | 26 | 19.5% | 49 | 19.7% | 75 | 19.6% |
| 感情の爆発 | 31 | 23.3% | 54 | 21.7% | 85 | 22.3% |
| 気分変調 | 33 | 24.8% | 55 | 22.1% | 88 | 23.0% |
| 自発的低下 | 45 | 33.8% | 54 | 21.7% | 99 | 25.9% |

複数回答あり

表 34. 暴言や暴力の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 98 | 73.7% | 194 | 77.9% | 292 | 76.4% |
| 時々あり | 29 | 21.8% | 47 | 18.9% | 76 | 19.9% |
| 頻繁にあり | 5 | 3.8% | 4 | 1.6% | 9 | 2.4% |

表 35. 性的な逸脱行為の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| なし | 113 | 85.0% | 235 | 94.4% | 348 | 91.1% |
| 時々あり | 17 | 12.8% | 11 | 4.4% | 28 | 7.3% |
| 頻繁にあり | 1 | 0.8% | 0 | 0.0% | 1 | 0.3% |

表 36. 家族との関係の状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 合計 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 問題なし | 77 | 57.9% | 170 | 68.3% | 247 | 64.7% |
| やや問題あり | 41 | 30.8% | 56 | 22.5% | 97 | 25.4% |
| 問題あり | 10 | 7.5% | 15 | 6.0% | 25 | 6.5% |

表 37. 就学・就労状況

| | 65歳未満 | | 65歳以上 | | 全体 | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 発症前と同様に就学・就職 | 2 | 1.5% | 0 | 0.0% | 2 | 0.5% |
| 復帰後対応変更や配置転換 | 4 | 3.0% | 4 | 1.6% | 8 | 2.1% |
| 転校、転職 | 1 | 0.8% | 0 | 0.0% | 1 | 0.3% |
| 休学、休職中 | 19 | 14.3% | 4 | 1.6% | 23 | 6.0% |
| 退学、離職 | 73 | 54.9% | 44 | 17.7% | 117 | 30.6% |
| その他 | 20 | 15.0% | 146 | 58.6% | 166 | 43.5% |

【現在受けている支援やサービス】

表 38. 福祉サービスの利用状況

| | 65 歳未満 | | 65 歳以上 | | 全体 | |
|--------|--------|------|--------|------|----|------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 訪問介護 | 4 | 3.0% | 2 | 0.8% | 6 | 1.6% |
| 通所介護 | 8 | 6.0% | 8 | 3.2% | 16 | 4.2% |
| 授産所 | 1 | 0.8% | 0 | 0.0% | 1 | 0.3% |
| 小規模作業所 | 2 | 1.5% | 0 | 0.0% | 2 | 0.5% |
| その他 | 7 | 5.3% | 5 | 2.0% | 12 | 3.1% |

表 39. 介護保険の利用状況

| | 65 歳未満 | | 65 歳以上 | | 全体 | |
|------|--------|-------|--------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 訪問介護 | 8 | 6.0% | 12 | 4.8% | 20 | 5.2% |
| 訪問看護 | 5 | 3.8% | 7 | 2.8% | 12 | 3.1% |
| 通所介護 | 2 | 1.5% | 42 | 16.9% | 44 | 11.5% |
| 通所リハ | 31 | 23.3% | 76 | 30.5% | 107 | 28.0% |
| その他 | 6 | 4.5% | 21 | 8.4% | 27 | 7.1% |

表 40. 市町事業の利用状況

| | 65 歳未満 | | 65 歳以上 | | 全体 | |
|--------|--------|------|--------|------|----|------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 介護予防事業 | 1 | 0.8% | 1 | 0.4% | 2 | 0.5% |
| 機能訓練事業 | 2 | 1.5% | 1 | 0.4% | 3 | 0.8% |
| 訪問指導 | 0 | 0.0% | 2 | 0.8% | 2 | 0.5% |
| その他 | 2 | 1.5% | 0 | 0.0% | 2 | 0.5% |

【リハビリテーションの内容】

表 41. リハビリテーションの受療状況

| | 65 歳未満 | | 65 歳以上 | | 全体 | |
|-----|--------|-------|--------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| PT | 69 | 51.9% | 151 | 60.6% | 220 | 57.6% |
| OT | 108 | 81.2% | 171 | 68.7% | 279 | 73.0% |
| ST | 33 | 24.8% | 47 | 18.9% | 80 | 20.9% |
| その他 | 7 | 5.3% | 19 | 7.6% | 26 | 6.8% |

表 43. リハビリテーションのアプローチ内容

| | 65 歳未満 | | 65 歳以上 | | 全体 | |
|------------|--------|-------|--------|-------|-----|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 評価 | 82 | 61.7% | 151 | 60.6% | 233 | 61.0% |
| 身体アプローチ | 107 | 80.5% | 212 | 85.1% | 319 | 83.5% |
| 認知訓練 | 66 | 49.6% | 135 | 54.2% | 201 | 52.6% |
| 心理的アプローチ | 30 | 22.6% | 47 | 18.9% | 77 | 20.2% |
| 代償手段訓練 | 27 | 20.3% | 32 | 12.9% | 59 | 15.4% |
| ADL訓練 | 66 | 49.6% | 161 | 64.7% | 227 | 59.4% |
| IADL訓練 | 24 | 18.0% | 28 | 11.2% | 52 | 13.6% |
| 復学・復職アプローチ | 16 | 12.0% | 8 | 3.2% | 24 | 6.3% |
| 家庭・学校・職場環境 | 11 | 8.3% | 16 | 6.4% | 27 | 7.1% |
| 家族指導 | 24 | 18.0% | 34 | 13.7% | 58 | 15.2% |
| その他 | 15 | 11.3% | 13 | 5.2% | 28 | 7.3% |

表 42. リハビリテーションの月平均実施回数

| | 65 歳未満 | 65 歳以上 | 全体 |
|----|--------|--------|------|
| PT | 11.9 | 13.3 | 12.8 |
| OT | 10.8 | 13.2 | 12.2 |
| ST | 12.7 | 15.9 | 14.6 |

平成 18 年度 高次脳機能障害実態調査報告書

平成 19 年 2 月発行

発行：石川県リハビリテーションセンター

〒920-0353 金沢市赤土町ニ 1 3 - 1

TEL (076) 266-2866

FAX (076) 266-2864